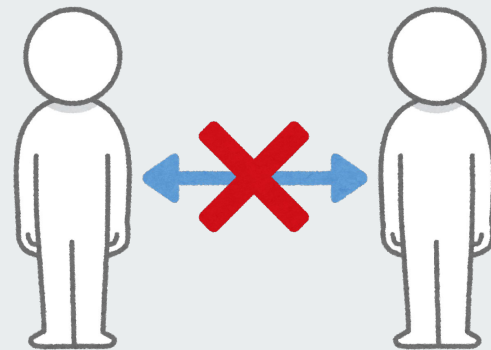


カミングアウトの溝をなくすために

上田染谷丘高等学校 1年 河野菜歩

5 ジェンダー平等を
実現しよう



1 テーマ設定の理由

SDGsで設定された17のゴールのうち、特に目標が達成できていない、達成するのが難しいと感じたのが「ジェンダー平等」だったから。

ジェンダー平等のためにまず自分たちができることを考えたら、身近な人についてのことなのかなと思ったから。

関連するSDGs →



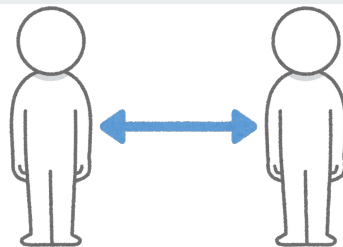
2 現状

ジェンダー自体は身近に感じられるようになってきて、ニュースやテレビでも日常的にその単語を耳にすることが多くなってきた。徐々に社会におけるジェンダーについての理解が深まっていると考えられる。

しかし先日AAAの與真司郎さんが自身が同性愛者であることをカミングアウトしたとき、そのことについて海外メディアが「日本では極めて異例の行動」と報じていることから、**海外から見ると日本が遅れを取っている**ことは確かである。

実際の記事 ↓

こうした告白について「**保守的な日本では極めて異例のこと**」



3 課題

個人的に一番の課題だと思っているのは「カミングアウト時に周囲との溝ができること」についてである。

先に書いた報道でも、当事者はカミングアウトしなければ自分らしくいられず、生きづらさを抱えている。一方で、公表すれば偏見やいじめなどの対象となることもある とある通り、

カミングアウトするという行為が『自分はまだ理解が追いつきませんよ』という溝や、『自分は同性愛者であることなどを受け入れますよ』という溝ができてしまう。これが課題だと私は考えている。

4 提案

私は、カミングアウト時に溝を作らないようにすることが必要だと思う。

そのためにジェンダーについて理解を深め、同性愛が普通ではない、または特別であるという意識をなくしていくべきだと考える。

もし自分がカミングアウトされたり、したりするときに、その会話を普段の世間話や好きなタイプの話をするくらいの温度感で、緊張感などもなく話せるような社会になったら素敵だと思うのだ。





まとめ、感想

ジェンダーについての取り組みや理解が世界的に見て遅れている日本において、自分たちにできることはジェンダーについて知り、そのどれもが特別ではないと理解することだ。「男だから」「女だから」の意識にとらわれないことが大切だと思った。

同情も嫌悪も厚意も、発生してしまったらそれが相手との間の溝になり “自然な付き合い”をしていくことができなくなるだろう。

周りの人と良い関係性を築いていくためにも、理解して認めることが大切なんじゃないかなと感じた。

引用文献・参考

AAA與真司郎さんのカミングアウト SNS
で広がる歓迎や共感 | 毎日新聞



2023年度全国キャンペーン: 聞こえてきた声 | ACジャパン

